外国人幼児等の受入れに関する研修　5

テーマ別研修

実践事例から学ぶ
園の特性に応じた保育

ー園の実情に即した活用に向けてー

公益社団法人 全国幼児教育研究協会

はじめに

【本講座の目的】

1 これまで学んだことを総合して考え、保育者自身が多様な考え方を受け止める大切さに気付き「変わる力」を身に付ける

2 研修で学んだことを自園の実情に照らして考え保育を「変える力」を身に付ける

【キーワード】

実践事例からの学び　園や地域の特性　実情に即した活用

【本講座の構成】

1 外国人幼児等一人一人の特性や背景に応じた保育の展開

2 違いを知り、受け止め合う環境の構成と援助の工夫

3 外国人幼児等を受け入れている保育者たちの語りからの学び

1

外国人幼児等一人一人の特性や背景に応じた保育の展開

1-1-1 様々な背景をもつ外国人幼児等の理解

学級に一人の 3 歳児の外国人幼児が入園した時によく見られる姿を紹介します。家庭や地域でどのような出会いがあり、保育者と関わりながら園生活を展開していくか、3 歳児の発達の特性と関連付けて捉えましょう。

3 歳児・A 児
- 最近、イギリスから来日。
- 両親とも英語を母語とし日本語は分からない。

地域に知っている人はいない。
まだ日本の生活習慣がよく分からない。

入園当初～数カ月間の A 児の園生活の様子

半年後

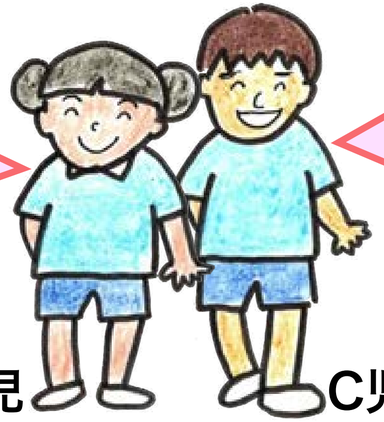
3 歳児の発達の特性 ▶ 自分がしていることに没頭しやすい

1-1-2 様々な背景をもつ外国人幼児等の理解

４歳児は、周囲の様子を見て自分の動きをするようになる傾向がありますので、現れ方もいろいろです。幼児の特性の違いを感じ取って対応することが大切です。

４歳児・B 児

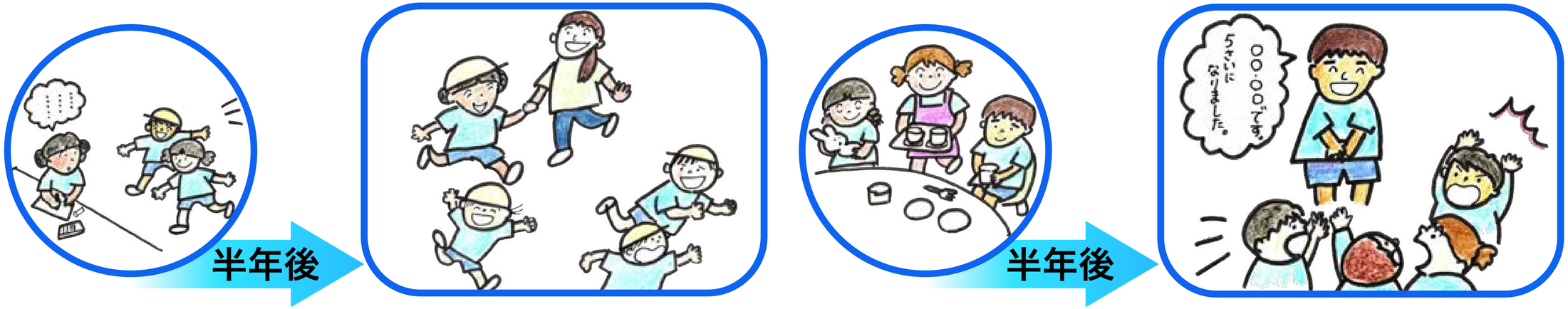
- 父親は日本人。母親は中国人。数カ月前、中国から来日。
- 夫婦の会話は中国語で、父親はときどきB 児に日本語で話しかける程度。



４歳児・C 児

- １カ月前に、サウジアラビアから来日
- 両親とも日本語は分からず、家庭ではアラビア語で会話。近所に園便りなどを翻訳してくれる人がいる。

入園当初～数か月間のB児とC児の様子

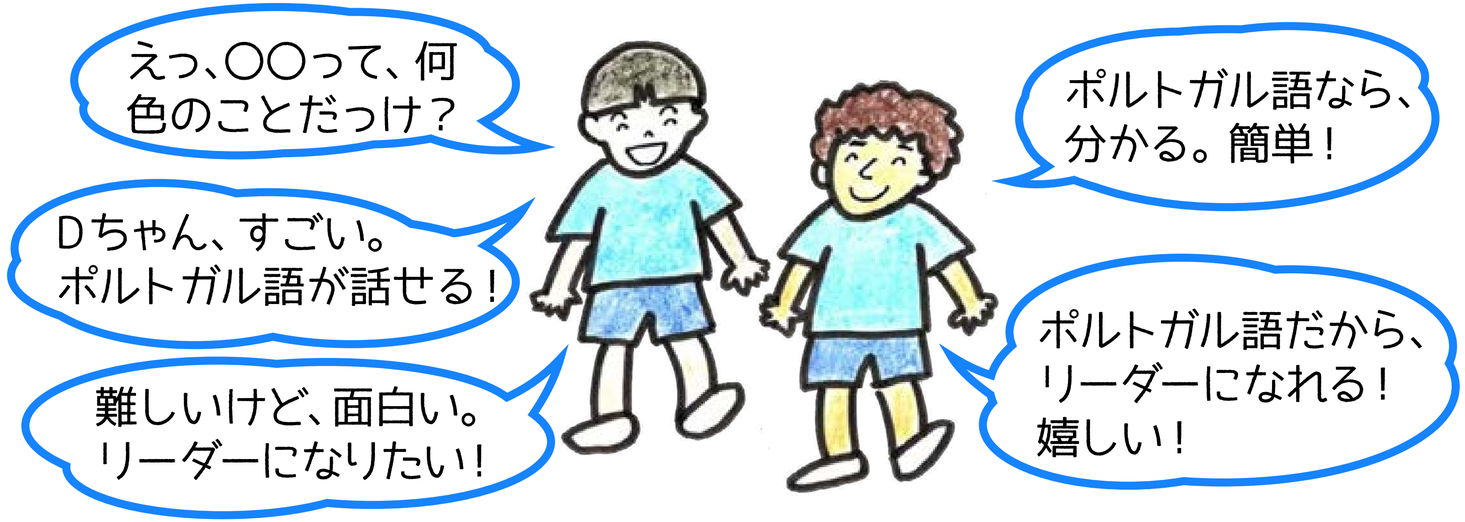


1-2-1 母語で存分に自己発揮できる遊びの工夫
ー外国人幼児等がリーダーになって楽しめるゲームの事例ー

外国人幼児等は、登園から降園までずっと日本語の世界の中で生活しています。話をしたくてもどう表現すればよいのか分からず、不安でいっぱいの幼児もいます。そんな中で、時には自分の言葉で思い切り言葉を発して皆と一緒に遊び、リーダーになれたら、園生活が楽しいと感じ、自信にもつながるのではないかと期待し工夫した保育の展開例です。

ゲームの内容：ポルトガル語と日本語を交えた引っ越し鬼
フラフープの色別の島への引っ越しゲーム（赤、黄、青、緑、白）

〇外国人幼児がリーダー役
〇日本人幼児がリーダー役



1-2-2 外国人幼児等がリーダーになれるゲームの意義

① **外国人幼児等にとっては**、自分の母語で**自分の力を思いきり発揮して遊ぶ楽しさや喜び**を味わう。

② 喜びや安心感が**主体的な動きを生み出すきっかけ**になる。

③ **日本人幼児にとっては、**言われている言葉が分からない経験を通して、日頃の外国人幼児等の**戸惑いに気付き、相手のことを思いやることにつながる**。

④ いろいろな遊びや言葉を知り、分かり合う喜びや**違いを受け止め合う**ことにつながる。

Q1　外国人幼児等がリーダーになれるゲームを考えてみよう！

・在園している幼児やそのクラスの状況に即した遊びを考えてみましょう。

1-3 同じ言語を使う外国人幼児等が複数在籍する園における保育の工夫

　それぞれの国の文化や生活習慣を尊重しつつ、互いが気持ちよく生活できるように考えるという基本的な考え方は同じです。しかし、同じ言語を使う外国人幼児等が複数在籍する時には、保育の展開について配慮したいことがもう１つあります。

同じ言語を使う外国人幼児等が複数在籍する園における学級の様子

- **外国人幼児同士で集まって安定**し、日本人幼児と関わりにくい。
- 安心してコミュニケーションをとりながら園生活を楽しむことができるが、**日本語に触れる機会や覚える必要感が少ない**。
- 特に、家庭や地域では母語で生活している幼児にとっては、**園での生活が日本語と触れる唯一の機会となることに留意して、**保育の展開を工夫することが大切である。

保育者が → **場面を捉えて** → **積極的に関わり** → **外国人幼児等が日本語を使う機会をつくっていく**

1-4-1 安心から始まる園生活

ー多くの外国人幼児等が在籍する園の日本語サポート室の取組例ー

外国人幼児等が多く在籍する園では、同じ言語を話す幼児同士で集まりホッとしている姿もあります。そんな外国人幼児等が**１日の園生活のスタートを母語が通じる仲間と過ごし、まず安心してから学級の幼児と共に過ごす生活へとつなげる保育の展開**を園全体で工夫している例を紹介します。

外国人幼児等にとって理解しやすい環境、安心感を生み主体的な活動を促す場

- 自分の母語で話せて、理解しやすい場
- 好きなことをゆったりと楽しめる場
- 分からないことを母語で聞ける場

日本語サポート室に興味をもった日本人幼児（少人数のみに限定）の参加

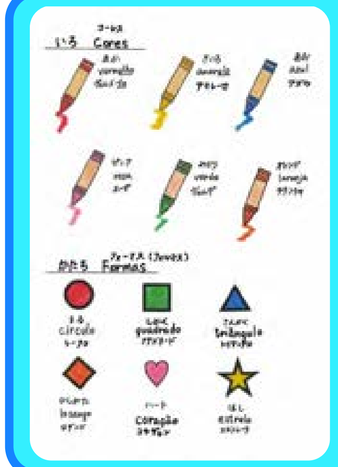
↓

日本人幼児と言葉を交わすきっかけ

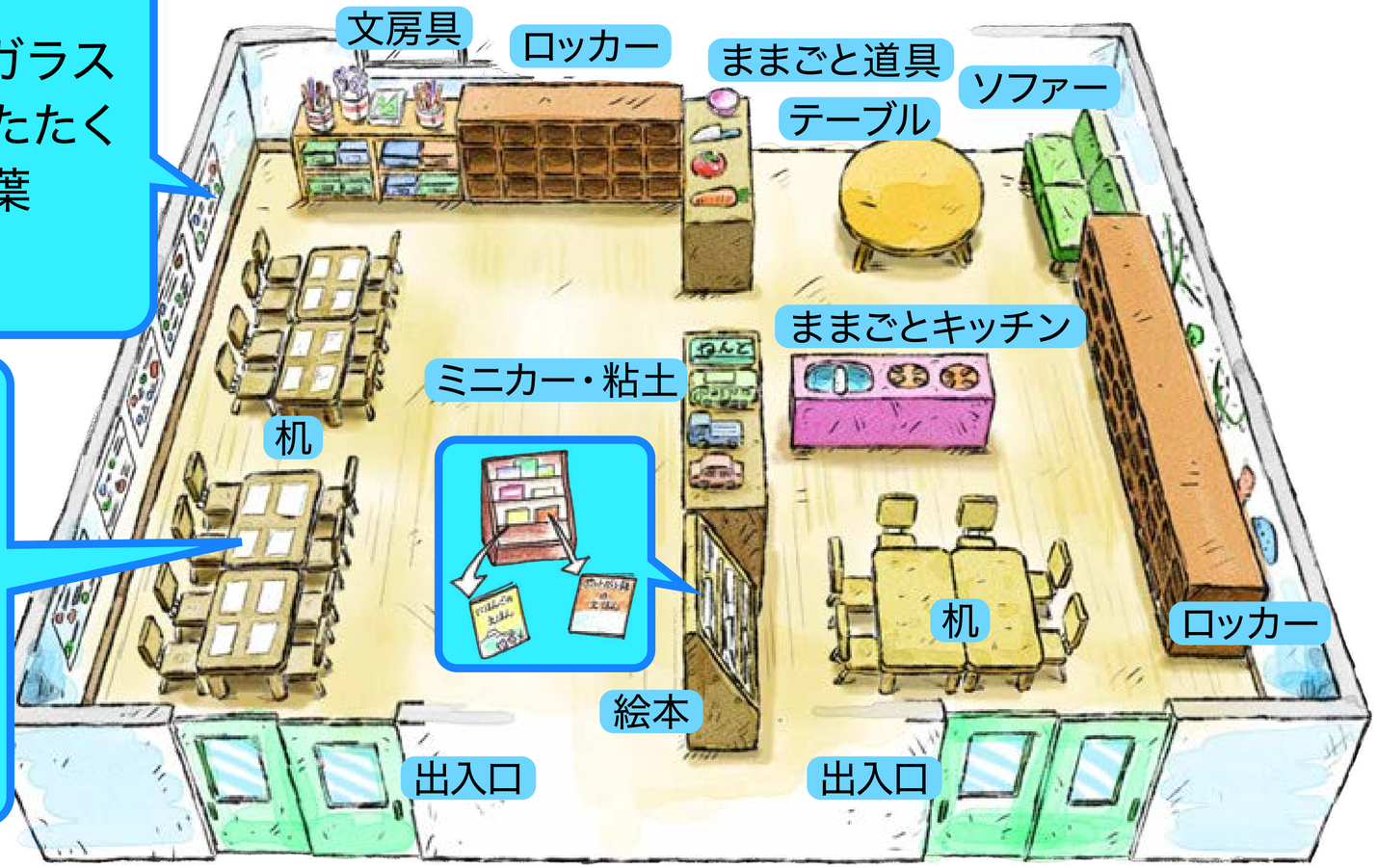
1-4-2 日本語サポート室における生活と環境

・登園時から１時間のみ開室
・希望する外国人幼児等が利用
・母語を話せる保育者が在室（２名）
・日本人幼児も１日に **５人程度ならば**入室可能

壁面、窓ガラスに貼られたたくさんの言葉



机に貼られているポルトガル語と日本語



1-4-3 日本語サポート室で経験していること

外国人幼児等にとっての意義

自分のことを
分かってくれる人が
いる安心感、解放感の
ある拠り所

自分の思いを
思ったように表現し、
伝わる仲間との
連帯感

母語や
母文化の保持

日本人幼児と
日本語でやり取り
をするきっかけ

◎一人で遊んでいた外国人幼児が日本人幼児と遊び始めた様子

日本人幼児にとっての意義

外国の雰囲気が
ある環境への興味の
広がり

言葉が分からない
世界に入って
みる体験

外国人幼児等と話を
したり、親しみを感じ
たりするきっかけ

2

違いを知り、受け止め合う環境の構成と援助の工夫

2-1 互いの国や文化に親しむ事例

園舎の入口にある掲示板
（在園児の国の挨拶の言葉）

韓国では、アンニョンハセヨって言うんだ。〇〇ちゃん、アンニョンハセヨ。

それじゃあ、△△は、なんというの？〇〇ちゃんは、韓国語の先生だね。

〇〇ちゃんは、日本語が分からないから、優しく教えてあげなきゃ。

- いろいろな国から来ている外国人幼児等に関心を向け、親しみの気持ちをもつようになることが期待される。
- 外国人幼児等に関心をもって接するきっかけになる。
- 相手の言葉や文化、考え方を尊重する心の芽生えにつながる。

Q2 この園では、外国人幼児等の保護者に協力を求めて文字を書いてもらってこの掲示板を作りました。皆さんだったら、どのようにして作りますか？

2-2 日本の文化に親しむ事例

・盆踊り楽しかったね

Ｅちゃんのお母さんだよ。
お菓子、早くたべたーい。

日本の文化の紹介の中で大切にしたいこと

- 盆踊りを地域の人たちと踊る楽しさ、皆が楽しみにしている地域の祭りなど、紹介しながら、地域が大切にしていることを自分たちも楽しみに待ち、共に楽しむ体験にしたい。
- 外国人幼児等の保護者も共に楽しめる機会を作るのも良いと考えられる。
- 相手の言葉や文化、考え方を尊重する心の芽生えにつなげたい。

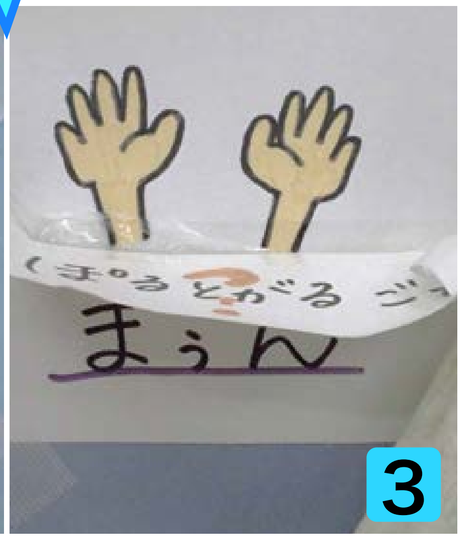
2-3-1 幼児期ならではの言葉を育む環境例
ー言葉への興味を引き出す環境ー

・興味をもって問いかけたくなるコミュニケーションのきっかけづくり

・日本人幼児も興味をもって知りたくなる環境

動作に関する日本語を可視化した環境
園長先生のネックレス、壁面に貼られた図

知的好奇心をくすぐる仕掛け
日本語サポート室周辺の壁に貼られたクイズ



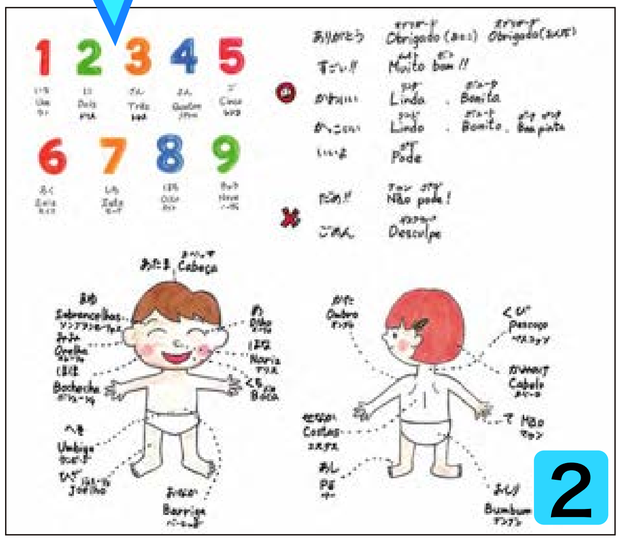
2-3-2 幼児期ならではの言葉を育む環境例

ー親しみやすく分かりやすい表記・文字環境ー

読みたくなるイラスト付きの表示
日本語サポート室の案内ボード

文字が読めなくても分かる工夫
写真もつけて

1



2

3

Q3 あなたの園では、どのような工夫が考えられるでしょうか？

外国人幼児等が分かりやすいようにする工夫、文字への興味・関心など、幼児の状況に応じて、工夫できることを考えてみましょう。

2-4 言葉に親しみ育む環境

- 外国人幼児等が安心して学級の中で過ごせるように、なじみのあるものが思い起こせる環境
- 自分が学級の中で受け止められていると感じる環境
- ゲーム感覚で問いかける仕掛けのある環境
- 繰り返し楽しめる掲示板や表示の工夫
- 在園している外国人幼児等が親しみやすい遊びや絵本など、幼児が手にしてみたくなる環境
- 外国人幼児等も日本人幼児も、興味をもった時に、自分から関われる環境
- 日本の文化に親しむ場や、外国人幼児等と日本人幼児とが話題にしやすい文化・情報を含んでいるものや文字環境

2-5-1 幼児の遊びに寄り添いながら行う援助
ー通訳や日本語サポーター（ボランティア）等の活用・役割についてー

通訳や日本語サポーター（ボランティア）

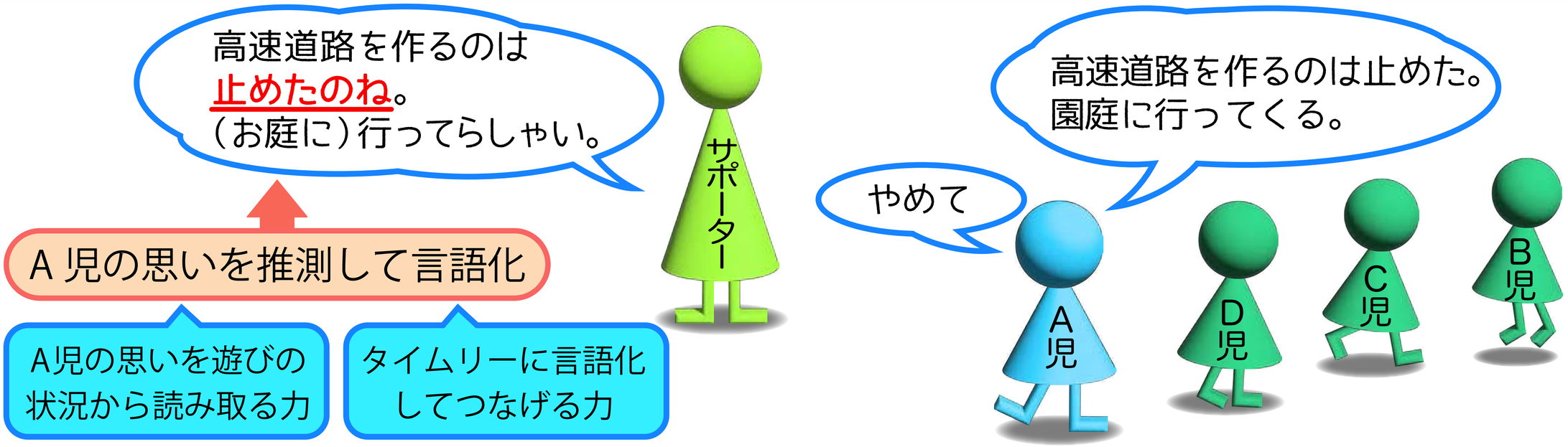
幼児の遊びに入り、その場の状況に応じて通訳をしたり適切な日本語の表現を伝え、コミュニケーションをサポートする人が数時間配置される地域もあります。ボランティアが入る園もあります。その活用・役割について考えます。

事例「やめて」

Ａ児は、「やめて」といって、何を伝えたかったのでしょうか？

2-5-2 幼児の遊びに寄り添いながら行う援助

ー日本語サポーターと保育者の連携・協働の重要性ー



日本語サポーター（通訳）の役割

- A 児に寄り添いながら、周囲とのコミュニケーションで**戸惑っていたら通訳する。**
- A 児の日本語が相手に通じていない時には、適切な言葉に言い換えて **A 児の思いが伝わると同時に、A 児にとっては表現のモデル**となるようなタイムリーな関わりをする。
- A 児の思いの読み取りは、**サポーターの感性＋担任保育者との連携・協働する。**

2-6 幼児期における日本語を育む援助のポイント

- 日本語を育む援助は、特別な時間や場を設けて行うのではなく、外国人幼児等が興味をもった時や日本語を話そうとした時に**タイムリーに援助**する。
- 外国人幼児等が日本語で話そうとしているけれども表現できずに言葉を探している時には、幼児が言おうとしていることを**推測して話しかけたり問い返したりし**て、保育者の「**分かりたい気持ち**」が伝わるようにする。
- 日本語通訳者等（ボランティア等も含む）が、外国人幼児等の**遊びの中に入り込みながら通訳**する場合には、幼児の言葉を通訳をするだけではなく、場面に応じて、**外国人幼児等が日本語で表現できない思いを推測して言語化**し、その反応から適切に伝わっているかを確認しながら援助していく。
- 担任保育者は、日本語通訳者等に任せきりにするのではなく、外国人幼児等と日本語通訳者等の関わりに着目し、**どのような状況の時にどのような日本語のモデルを示してほしいのかを伝え、連携・協働しながら**進める。

3

外国人幼児等を受け入れている保育者たちの語りからの学び

3-1「聞いてほしい」「分かってほしい」と思われる保育者に

ー認定こども園における研修後の園長先生の語りからー

外国人幼児が初めて覚えた日本語が、
担任の先生の名前だった

思いが通じるように、外国人幼児等の保護者が
納得いくまで何度でも話を聞く保育者

気持ちを寄せ、相手の立場に立って関わり、
「この人に伝えたい」と思われるような保育者

3-2「だめ」という言葉は使わないで

ー外国人の日本語サポーターの語りからー

「だめ」という言葉の
勢いや表情

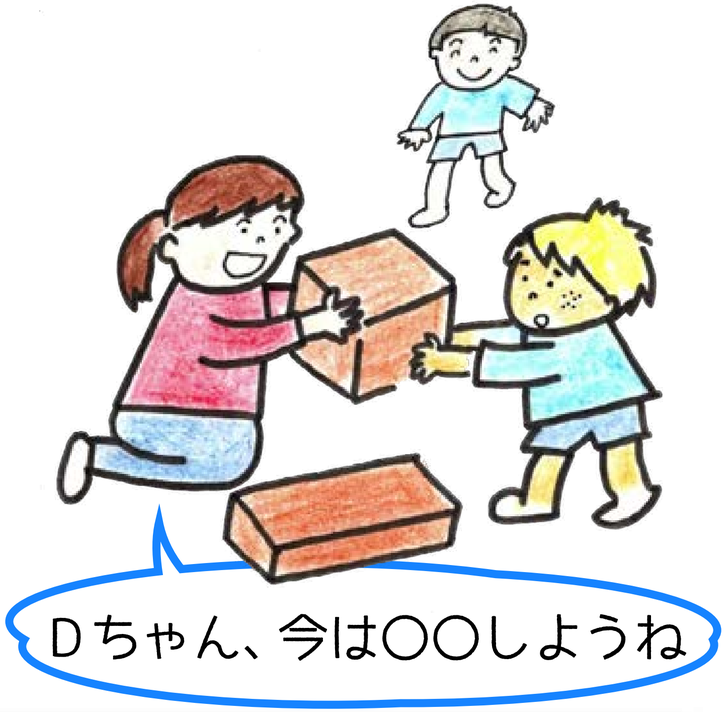
▼

自分が否定された感覚

▼

期待する行動を
示唆する言葉を！

▼



例えば

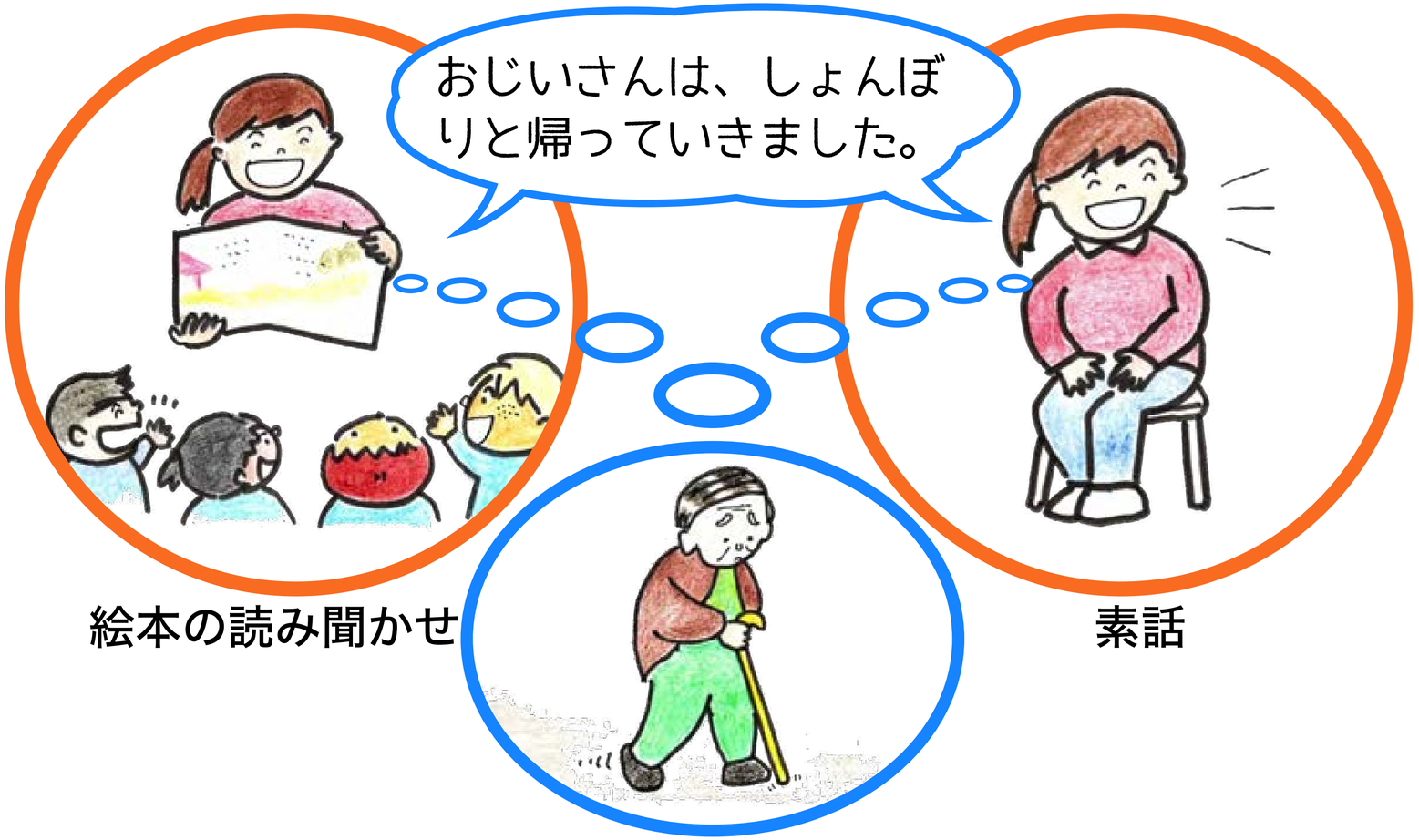
危ない。積み木は
投げません。

足に落ちたら痛いから、
そうっと置こうね。

ぶつからなくて
よかったね。

3-3 様々な感情や状況を表現する言葉に触れる経験

ー NPO 法人で、通訳・相談員をしている方の語りからー



様々な感情に**出合う**

▼

読み手の表情などから**感じる**

▼

登場人物の
気持ちや状況を**想像する**
(日本語の感覚が培われる)

▼

豊かな感性が育つ

Q4 保育者等の語りから学んだことを話し合ってみましょう。

園内研修の実効性を高めるために
ー在園する外国人幼児等の実情に即した保育の実現ー

保育者自身が多様な考え方を受け止める大切さに気付き「変わる力」や、研修で学んだことを自園の実情に照らして考え保育を「変える力」を身に付けるために

実効性を高めるための視点

- 外国人幼児等の発達や文化的・言語的背景など、全体が見えているか
- 保護者が何に戸惑っているのか、保護者のニーズを把握しているか
- 市町村（行政）が行っている外国人幼児等に対する支援体制を理解し、適切に活用しているか
- 地域の人材や支援団体の得意としていることを理解し、適切に活用しているか
- 通訳や日本語のサポート等をしてくれる方々や団体等に対して、個人情報の保護の観点から適切に対応しているか

Q5 上記の視点から、これまでの実践について振り返ってみましょう。